

○事業所名	原田学園 ことばの支援センター（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年12月22日		～	令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	対象者数	46	回答者数	27
○従業者評価実施期間	令和7年12月12日		～	令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	対象者数	4	回答者数	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援内容の専門性や個性が高く、子どもが安心して通える環境が整っている。	子どもの特性や状況を丁寧に把握し、安心感をもって過ごせるような関わりと支援を行っている。また、活動内容が固定化しないように、子どもの興味関心や達成感につながる課題を設定し、楽しく取り組める工夫を継続している。さらに、保護者との情報共有を日常的に行い、子どもの健康や発達状況について共通理解を深めることを意識している。	今後も、子どもの成長が保護者により分かりやすく伝わるよう、支援の目的やねらいを明確にした説明を継続し、日々の支援の積み重ねが見通しとして共有できるよう取り組む。また、子どもの「できた」「楽しい」という経験が継続的に積み上がるように、活動内容の改善や振り返りを行いながら、より質の高い支援の提供を目指していく。
2	保護者との情報共有と共感的支援が安定している	利用時に、家庭での様子や困りごとを丁寧に聞き取りながら、保護者と状況を共有したうえで支援を行っている。保護者の気持ちに寄り添い、安心して相談できる関係づくりを大切に、必要に応じて対応方針の確認や助言を行っている。また、子どもの療育中の様子を具体的に伝えることで、家庭との連携が取りやすくなるよう意識している。	保護者が相談しやすい環境づくりを引き続き整える。時間や場所の配慮だけでなく、話しやすい雰囲気づくりや声かけなども意識し、継続的に安心して相談できる体制を整える。また、支援の説明がより伝わりやすくなるよう、目的や関わり方を分かりやすく共有し、保護者の理解と納得につながる支援を目指す。
3	安心感・満足度が高い	子どもが安心して通所できるよう、職員との関係づくりを大切に、信頼関係を積み重ねながら日々の支援を行っている。また、落ち着いた環境設定を意識し、活動がスムーズに進むように刺激の調整や空間の配慮を行っている。子ども自身が安心して時間を確保しながら、無理なく活動に取り組めるよう支援の進め方を工夫している。	引き続き、安心感につながる支援体制を維持し、子どもが安定して過ごせる環境を継続的に整える。また、支援の質を保つため、職員間で振り返りの機会を持ち、子どもの変化や反応を共有しながら支援の方向性を確認する。日々の積み重ねを大切に、子どもや保護者の満足度が維持・向上できるよう、継続的な改善と工夫を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境設定（構造化）の細かい調整が必要	活動に集中しやすい環境づくりを行う中で、教材・遊具の配置や見せ方によって、子どもの注意が逸れやすい場合がある。特に視覚情報が多い環境や、刺激が強い配置になってしまうと、活動への意欲はあっても集中が続きにくくなることもある。また、活動内容によって必要な環境調整が変わるため、その都度の細かい調整が課題になりやすい。	活動目的に応じて配置を見直し、子どもが集中しやすい環境設定を継続的に工夫する。例えば、必要な物だけを提示する、視界に入る刺激を減らす、導線を明確にするなど、構造化の工夫を積み重ねていく。また、子どもの反応を振り返りながら配置を調整し、より活動が成立しやすい環境を検討することで、支援の安定につなげていく。
2	個人情報・相談時の配慮の強化が必要	同じ空間に他の利用者がある場面では、相談内容が聞こえやすくなる可能性がある。支援の特性上、短時間でも保護者から相談を受けることがあり、周囲の状況によっては十分な配慮が難しい場合もある。また、内容によっては個人情報を含む話題になることもあるため、より意識的に環境や対応方法を整える必要がある。	相談時の場所や音量に配慮し、必要に応じて個別に話せる環境を確保する。状況に応じて別室対応を検討したり、時間を改めて落ち着いた環境で話を伺うなどの工夫を取り入れる。また、職員間で相談対応時の留意点を共有し、保護者が安心して相談できる体制を整えることで、個人情報の保護と信頼関係の維持につなげていく。
3	家族支援・保護者交流・地域交流の取組が課題として残る	家族支援については、取り組みが伝わりにくい現状にあることが考えられる。また、交流活動は参加へのハードルが高く感じられることもあり、結果として参加者が限定されてしまうことがある。事業所側も通常の支援業務との両立が必要なため、計画的な実施が難しい場面もあり、継続的な実施が課題になりやすい。	家族支援については、実施内容が分かりやすく伝わるよう通信等で周知を強化する。保護者交流や地域交流については二ーズを確認しながら、負担の少ない形で実施できる機会を検討し、必要な家庭に支援が届くよう整備する。